

子どものきもの ～健やかな成長を願う～

- 主催 福井市立郷土歴史博物館
- 会場 松平家史料展示室
- 会期 令和6年5月11日(土)
～7月7日(日)
- 休館日 6月10日(月)～13日(木)

洋服が一般化した現代では、「きもの」を着る機会は限られるようになりました。中でも、「子どものきもの」というと、七五三などの節句や成人式などの式典というように、人生の通過儀礼と深い関わりがあります。

本展では、江戸時代から大正時代にかけて越前松平家の子が着用した、子どものきものを紹介します。子どものきものには、成人のきものとは異なるさまざまな特徴が見られます。それは、子どもの未熟な身体を機能的に助ける役目を持っています。着用するきものの変化は、健やかな成長の証でもありました。

「子どものきもの」の呼び名

子どものきものと、大人のきものとの大きな違いは、きもの大きさ、そして仕立て方です。近代以前は、布帛（絹、麻、木綿など）はたいへん貴重な材料であったため、無駄遣いをすることなく、効率的に布帛を用いるために裁断方法が考案されました。そして、布使いに合わせて、子どものきもの呼び名が異なります。

「一つ身」は、身幅（肩幅）を布幅一杯に用いて仕立てることからの呼び名です。背の中心を通る「背縫い」が無いことが特徴で、生後～3歳くらいまでの乳幼児のきものに用いられます。産衣はこの仕立て方で作られます。

「四つ身」は、身丈の4倍で身頃（腕や襟などを除く胴体）部分の布を裁断することからの呼び名で、3～12歳くらいまでの子どものきものに用いられます。一つ身とは異なり、背中に縫い目があります。

（他に「二つ身」や「三つ身」も、布帛の裁断方法による呼び名ですが、現在ではあまり用いられません。）



白羽二重地蓬菜葵紋付産衣（一つ身）
越葵文庫

背守り

一つ身の背中に施された刺繍を「背守り」と言います。一つ身は、背縫いがないことが特徴ですが、乳幼児の生存率が低かった近代以前には、背縫いの無いきものを着ていると、そこから魔物が入り込み、命を奪っていくと考えられていました。そのため、鎌倉時代頃から、一つ身のきものには、縫い目を模した刺繍が施されるようになりました。これが「背守り」の始まりです。明治時代以降になると、より装飾的な刺繍が施されたり、縮緬細工の飾りを縫い付けたりするよう変化していきました。また民間信仰や地域性を背景に、男女で縫い目を変えるといった区別も見られます。



背守り
背縫いに模した刺繍が施される。

肩あげと腰あげ

成長著しい子どもは、体格に合わせたきものでは、あっという間に寸足らなくなってしまいます。そのため肩を縫い上げて、衿（背中から手首まで）の長さを調節したり、腰下を縫い上げて身丈を調節することで、長い期間にわたって着用できるように工夫されています。特に四つ身仕立てのきものは、肩あげと腰あげをすることで、広い年齢幅で着用されました。



白麻地鶏模様帷子振袖（四つ身）
越葵文庫

肩あげと腰あげで大きさを調整する。帯の代わりに付け紐（帯）が付けられる。

付け紐（帯）

乳幼児の着るきものには、胸元にあらかじめ「付け紐（帯）」が縫い付けられています。身体の未発達な子どもが、大人と同様の帯を締めると内臓が圧迫されてしまうためです。また、活発な動作でも着物が脱げ落ちてしまうことがないように、羽二重などの柔らかな素材の付け紐（帯）で、きものが身体に沿うように着装しました。成長すると、付け紐（帯）のないきものに、大人と同様の帯を締めて「紐解き（帯解き）」の儀礼を行いました。これは、現在の七五三のお祝いの由来の一つとなっています。

振袖と脇あけ

現代では、「振袖」というと未婚女性の象徴のように思われますが、江戸時代初め頃までは「脇あけ」と言いました。成人に比べて体温の高い子どもの熱を外に逃がすために、きもの脇を開けて仕立てた（現在の身八ツ口）のが始まりです。子どもが成人になった証として、脇あけを縫いとじました。江戸時代になると、女性は結婚して懐妊した時、あるいは一定の年齢を超えた時（23歳前後）を成人として、振袖のたもと（振の部分）を切断し、縫い留める「袖留」を行いました。これが現在、礼装とされる「留袖」のきもの原型です。そして、「振袖」＝未婚女性というイメージが定着していったのでしょう。



産衣 縹緋地桐笹葵模様 当館蔵

振袖は古くは「脇あけ」と言い、子どものきもの
の象徴でした。

七五三と子どものきもの

数え年で7歳、5歳、3歳を祝う七五三は、子どもの成長を祝う行事ですが、現代では、数少ないきものを着る機会ともなっています。七五三は長い時を経て、さまざまな儀礼や習慣を取り込み変化してきましたが、多くは、江戸時代以前の武家の風習に由来します。以下で、江戸時代中期の故実書『貞丈雑記』に記された、江戸時代前期ころまでの武家の風習を見ていきましょう。

- ・髪置き^{かみおき}…男女とも3歳の年に行われたお祝いで、糸で作った白髪のかつら子どもにかぶらせて、白髪になるまで長生きするようにと長寿を祈りました。
- ・深そぎ…男女とも5歳の年に行われたお祝いです。ようやく生えそろうた髪の毛のすそを切り整えました。
- ・帯直し（帯解き／紐解き／紐直し）…男女とも5歳の年に行われたお祝いです。付け帯（紐）のないきものを着て、帯を締めました。
- ・袴着…背格好により、3、5、7歳の年に行われた男子のお祝いです。女子は一般には、袴着の儀式は行いませんでしたが、武家の中でも大名家の女子は、7歳の時に紅の長袴を着て祝いました。

「七歳までは神のうち」という言葉が示すように、衛生状態が向上し、医療の発達する近代までは、感染症や怪我、事故などで、子どもの命は容易に失われてしまう儚い存在でした。そのため、成長の節目で行われる儀礼や風習には、この世に命をつなぎとめ、成人への歩みを確かなものとするという意味が込められていました。そこには、いつの時代にも通じる、子どもの健やかな成長を願う普遍的な祈りがあります。

※きもの各部分の名称は、展示室内の解説パネルをご参照ください。

※主要参考文献 松平春嶽『幕儀参考』（『松平春嶽全集 第一巻』）、原書房、1973年4月発行
伊勢貞丈『貞丈雑記』、東洋文庫、平凡社、1985年4月発行
朝倉治彦編『守貞謄稿』、東京堂出版、1992年9月発行

長崎巖『きものと裂のことは案内』、小学館、2005年4月発行
似内恵子『子どもの着物大全』、誠文堂新光社、2018年5月発行
板倉寿郎ほか監修『原色染織大辞典』、淡交社、1977年6月発行

松平家史料展示室

企画展「子どものきもの」展示作品一覧

会期：令和6年5月11日（土）～7月7日（日）

No.	名称	所有者・伝来	員数	所蔵等	時代
江戸時代の親子 ～春嶽・勇姫・安姫のきもの～					
1	長袴 浅葱麻地輪違小紋葵紋付	松平春嶽	1具	福井市春嶽公記念文庫	江戸時代後期・19世紀
2	女兒振袖 紫緋地葵紋付	安姫（春嶽・勇長女）	1領	個人	文久3年（1863）下賜
3	女兒振袖 紅縮緬地桜花車模様	安姫（春嶽・勇長女）	1領	個人	文久3年（1863）下賜
4	女兒振袖 紅平絹地扇面流模様	安姫（春嶽・勇長女）	1領	個人	文久3年（1863）下賜
5	振袖 紅縮緬地春秋花車模様	勇（春嶽室、細川斉護二女）	1領	当館	江戸時代後期・19世紀
幕末の藩主の子ども ～一つ身と四つ身～					
6	男児袴 浅葱麻地輪違小紋葵紋付	藩主子息	1具	越葵文庫	江戸時代後期・19世紀
7	男児陣羽織 金襴地桐唐草模様	藩主子息	1領	越葵文庫	江戸時代後期・19世紀
8	男児羽織袴 黒平絹地葵紋付	藩主子息	1具	越葵文庫	大正～昭和時代・20世紀
9	小児振袖 萌葱平絹地竹雀模様葵紋付	藩主子息	1領	越葵文庫	幕末～明治初期・19世紀
10	小児振袖 白麻地鶏模様葵紋付	藩主子息	1領	越葵文庫	幕末～明治初期・19世紀
11	産衣 白羽二重地蓬萊葵紋付	藩主子息	1領	越葵文庫	幕末～明治初期・19世紀
12	小児振袖 茶縮緬地葵紋付	藩主子息	1領	越葵文庫	幕末～明治初期・19世紀
明治時代の子ども					
13	女兒振袖 藤色縮緬地紫陽花撫子模様	綾子（徳川家達娘）	1領	越葵文庫	明治30年代・19～20世紀
14	女兒袖無羽織 矢紺模様	綾子（徳川家達娘）	1領	越葵文庫	明治30年代・19～20世紀
15	女兒振袖 浅葱色染分縮緬地松竹梅鶴模様	綾子（徳川家達娘）	1領	越葵文庫	明治30年代・19～20世紀
16	振袖 小豆色縮緬地雪持紅白梅牡丹模様	綾子（徳川家達娘）	1領	越葵文庫	幕末～明治初期・19世紀
大正～昭和時代の子ども					
17	産衣 縹緋地桐笹葵模様葵紋付	綾子（松平春嶽孫）	1領	当館	大正2年（1913）
18	宮参り初着 納戸縮緬地菊花模様葵紋付	綾子（松平春嶽孫）	1領	当館	大正2年（1913）
19	小児ちゃんちゃんこ 金太郎駒模様		1領	当館	大正～昭和時代・20世紀
20	小児ちゃんちゃんこ 玩具軍配模様		1領	当館	大正～昭和時代・20世紀
21	女兒振袖 赤地花葵紋付		1領	越葵文庫	昭和時代・20世紀
子どもの手回り					
22	紙入	安姫（春嶽長女）	一括	個人	文久3年（1863）下賜
23	楊枝入	安姫（春嶽長女）	一括	個人	文久3年（1863）下賜
24	枝折	安姫（春嶽長女）	一括	個人	文久3年（1863）下賜
25	牙彫人形 鯉のぼり童子		1軀	福井市春嶽公記念文庫	大正天皇より拝領
26	牙彫人形 犬張子 銘：玉芳		1軀	福井市春嶽公記念文庫	大正天皇・皇后兩陛下より大正15年（1926）拝領
27	御所人形		1軀	当館	江戸時代後期・19世紀

※人物は、越前松平家略系図の解説パネルをご参照ください。 ※作品No.は展示順序とは一致しません。

次回の展示

夏期特別展① 橋本左内と横井小楠 令和6年7月20日（土）～9月1日（日）

夏期特別展② 修復完成！橋本左内の書簡集

令和6年7月12日（金）～9月1日（日）

展示解説シート No.168

令和6年5月8日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489

担当 佐々木佳美

印刷 備宮本印刷